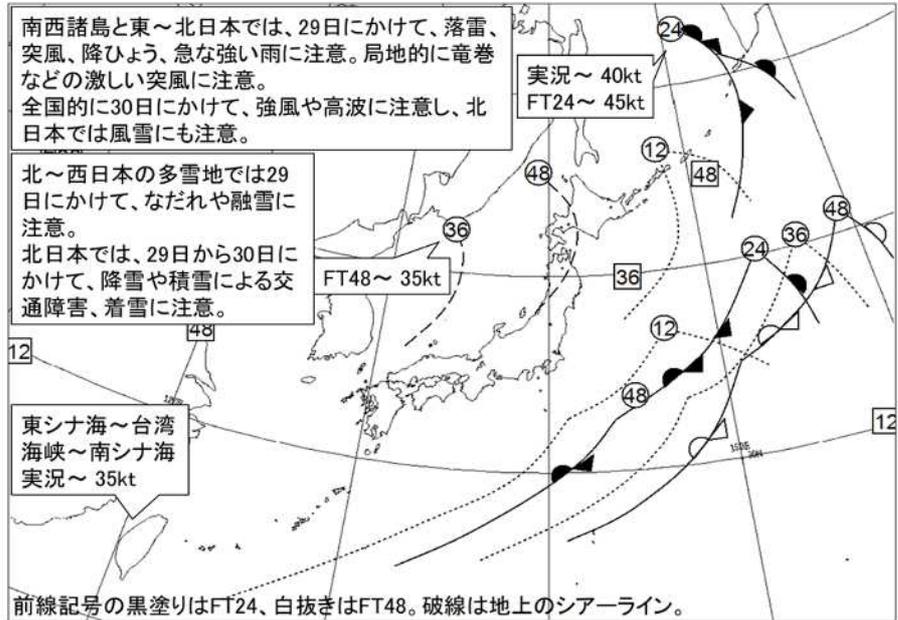


1. 実況上の着目点

① 500hPa 5520m付近の強風軸に対応した前線を伴う低気圧が北海道付近にあって北東進。また、500hPa 5640m付近のトラフに対応した前線を伴う低気圧が関東地方付近にあって東北東進。前線の南側では1時間に5mm前後の雨を解析し、沖縄南方海上では1時間30mm以上の雨を解析。

② 南鳥島には高気圧があって、東北東へ移動。

③ 1項①の低気圧や前線と1項②の高気圧の間で気圧の傾きが急となり、強い風や、やや強い風が吹き、波が高くなり、しけている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、29日にかけて、それぞれオホーツク海、日本のはるか東へ進み、前線が日本の東、沖縄の南へ達する。
- ② 29日夜までに、500hPa 5220m付近で -36°C 以下の寒気を伴うトラフ対応の低気圧が日本海に発生し、30日にかけてサハリン付近へ進み、低気圧付近からのびるシアーラインが北日本を通過する。2項①の沖縄の南の前線やシアーライン近傍、東日本では日中の昇温で大気の状態が不安定となる所がある。南西諸島と東～北日本では29日にかけて、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。沖縄地方では、局地的には大気の状態が非常に不安定となるため、竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 1項②の高気圧は東へ遠ざかり、次第に華北で高気圧が顕在化する。1項①の低気圧と高気圧の間や、大陸から張り出す高気圧の南縁では気圧の傾きが急となり、強い風や、やや強い風が吹き、波が高くなり、しける所がある。全国的に30日にかけて、強風や高波に注意し、北日本では風雪にも注意。
- ④ 2項①の低気圧や前線に向かって、北～西日本に850hPaで $+10\sim+15^{\circ}\text{C}$ の暖気が流入し、降水の影響も加わり雪解けが進む。北～西日本の多雪地では29日にかけて、なだれや融雪に注意。
- ⑤ 2項①の低気圧後面で、850hPaで -6°C 以下の寒気が、29日から30日にかけて北日本～西日本に南下する。北日本では30日は、降雪や積雪による交通障害、着雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量子想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(18時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。③ 波浪(明日まで)：関東・伊豆諸島・沖縄4、その他広い範囲で3m。④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。

1. 実況上の着目点

① 500hPa 5520m付近の強風軸に対応した前線を伴う低気圧が北海道付近にあって北東進。また、500hPa 5640m付近のトラフに対応した前線を伴う低気圧が関東地方付近にあって東北東進。前線の南側では1時間に5mm前後の雨を解析し、沖縄南方海上では1時間30mm以上の雨を解析。

② 南鳥島には高気圧があって、東北東へ移動。

③ 1項①の低気圧や前線と1項②の高気圧の間で気圧の傾きが急となり、強い風や、やや強い風が吹き、波が高くなり、しけている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の低気圧は、29日にかけて、それぞれオホーツク海、日本のはるか東へ進み、前線が日本の東、沖縄の南へ達する。

② 29日夜までに、500hPa 5220m付近で -36°C 以下の寒気を伴うトラフ対応の低気圧が日本海に発生し、30日にかけてサハリン付近へ進み、低気圧付近からのびるシアーラインが北日本を通過する。2項①の沖縄の南の前線やシアーライン近傍、東日本では日中の昇温で大気の状態が不安定となる所がある。南西諸島と東～北日本では29日にかけて、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。沖縄地方では、局地的には大気の状態が非常に不安定となるため、竜巻などの激しい突風に注意。

③ 1項②の高気圧は東へ遠ざかり、次第に華北で高気圧が顕在化する。1項①の低気圧と高気圧の間や、大陸から張り出す高気圧の南縁では気圧の傾きが急となり、強い風や、やや強い風が吹き、波が高くなり、しける所がある。全国的に30日にかけて、強風や高波に注意し、北日本では風雪にも注意。

④ 2項①の低気圧や前線に向かって、北～西日本に850hPaで $+10\sim+15^{\circ}\text{C}$ の暖気が流入し、降水の影響も加わり雪解けが進む。北～西日本の多雪地では29日にかけて、なだれや融雪に注意。

⑤ 2項①の低気圧後面で、850hPaで -6°C 以下の寒気が、29日から30日にかけて北日本～西日本に南下する。北日本では30日は、降雪や積雪による交通障害、着雪に注意。

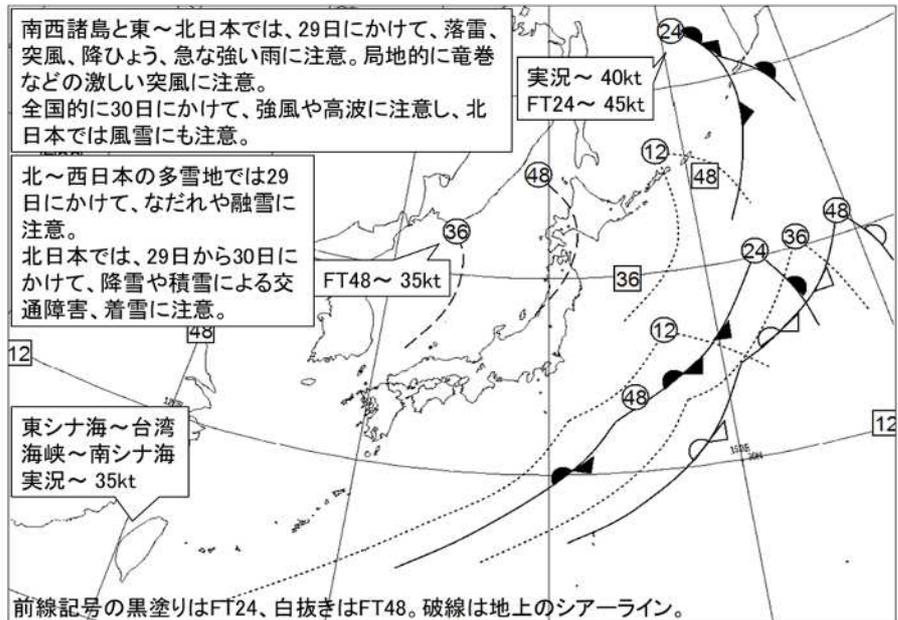
3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量子想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(18時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。③ 波浪(明日まで)：関東・伊豆諸島・沖縄4、その他広い範囲で3m。④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。



主要じょう乱解説図

1. 実況上の着目点

① 500hPa 5520m付近の強風軸に対応した前線を伴う低気圧が北海道付近にあって北東進。また、500hPa 5640m付近のトラフに対応した前線を伴う低気圧が関東地方付近にあって東北東進。前線の南側では1時間に5mm前後の雨を解析し、沖縄南方海上では1時間30mm以上の雨を解析。

② 南鳥島には高気圧があって、東北東へ移動。

③ 1項①の低気圧や前線と1項②の高気圧の間で気圧の傾きが急となり、強い風や、やや強い風が吹き、波が高くなり、しけている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の低気圧は、29日にかけて、それぞれオホーツク海、日本のはるか東へ進み、前線が日本の東、沖縄の南へ達する。

② 29日夜までに、500hPa 5220m付近で -36°C 以下の寒気を伴うトラフ対応の低気圧が日本海に発生し、30日にかけてサハリン付近へ進み、低気圧付近からのびるシアーラインが北日本を通過する。2項①の沖縄の南の前線やシアーライン近傍、東日本では日中の昇温で大気の状態が不安定となる所がある。南西諸島と東～北日本では29日にかけて、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。沖縄地方では、局地的には大気の状態が非常に不安定となるため、竜巻などの激しい突風に注意。

③ 1項②の高気圧は東へ遠ざかり、次第に華北で高気圧が顕在化する。1項①の低気圧と高気圧の間や、大陸から張り出す高気圧の南縁では気圧の傾きが急となり、強い風や、やや強い風が吹き、波が高くなり、しける所がある。全国的に30日にかけて、強風や高波に注意し、北日本では風雪にも注意。

④ 2項①の低気圧や前線に向かって、北～西日本に850hPaで $+10\sim+15^{\circ}\text{C}$ の暖気が流入し、降水の影響も加わり雪解けが進む。北～西日本の多雪地では29日にかけて、なだれや融雪に注意。

⑤ 2項①の低気圧後面で、850hPaで -6°C 以下の寒気が、29日から30日にかけて北日本～西日本に南下する。北日本では30日は、降雪や積雪による交通障害、着雪に注意。

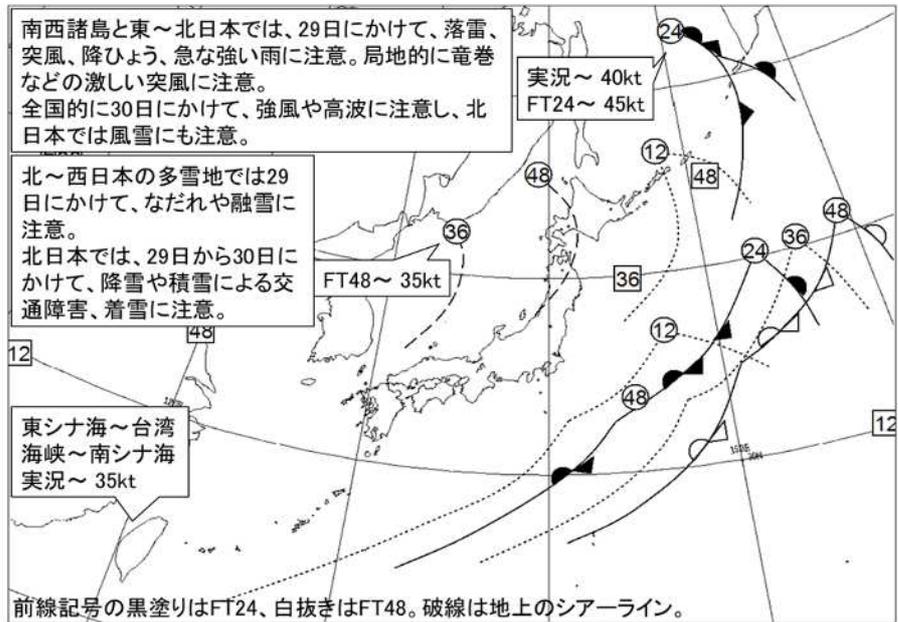
3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量子想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(18時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。③ 波浪(明日まで)：関東・伊豆諸島・沖縄4、その他広い範囲で3m。④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。



主要じょう乱解説図